

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	山田 富美雄 (やまだ ふみお)	所属	大阪人間科学大学
研究集会等名称	まばたき研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 23名 (うち認定心理士 3名) 非会員 10名 (うち認定心理士 2名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>(1) 日本心理学会においてワークショップを開催しました。</p> <p>大会2日目に WS085「まばたきでもっと研究を！」と題し、近年新たな状況にあると考えられる瞬目研究に関し、利便性・精度の高い指標として自由に幅広い研究分野で使用されるものになって瞬目について、話題提供者1名と指定討論者1名を含み、瞬目を利用する多くの研究者が集って瞬目に潜む問題点を共有化する場として活発な議論がなされた。</p> <p>(2) 年1回の定例研究集会を下記のとおり行いました。</p> <p>日時：平成24年3月25日(木)15:00より3月26日(金)13:00まで 場所：東京ガーデンパレス(幹事：田中裕、所属：川村学園女子大学) 内容：一般発表およびシンポジウム</p> <p>研究集会は、開催2日間(1泊2日)の参加者数が20名でした。主催者企画は「画像処理による閉眼時瞬目の検出」、小シンポジウムは「瞬目発生機序について」と題して話題提供と議論が行われました。一般演題は4件で、ラットの驚愕反応、役者の演技における瞬目、時間的注意および空間的注意と瞬目、スライドショー呈示中の瞬目など多岐にわたっていました。</p> <p>なお、研究会に続く総会において、会計報告とまばたき研究会の今後の進め方についての話し合いが行われました。次回2013年度の定例研究集会は、例年通りの時期(平成25年3月末の2日間)に、関西にて開催すること(幹事：水谷光良、兵庫県警察本部)を決定しました。それに加え、引き続き日本心理学会ワークショップでのまばたき研究の研究集会を実施することについて、参加者全体の賛同を得ました。さらに、まばたき研究会のホームページが作成されたことが報告されました。</p>		